

- 21世紀 心の時代に  
生きる喜びは自分の居場所があることから  
大山隆久…………… 1
- 道徳授業 私の実践  
・構造的な板書で道徳的価値の理解を深める  
寺西克倫…………… 4
- ・「なりたい自分」を実現するための指導構想の工夫  
加藤秀和…………… 5
- SDGs×道徳…………… 6
- どうなるこれからの道徳授業…………… 10

# 道徳 ジャーナル

現代的な課題 いのちの教育特集号



現場では同じ仲間  
私どもの「日本理化学工業」では、環境に配慮した、粉の飛散が少ないチョークや、お絵かき筆記具の「キットパス」などを作っています。製品を作っている社員の約七割は、世間一般にいわれる障害者です。

21世紀  
心の時代に  
生きる喜びは自分の  
居場所があることから



日本理化学工業株式会社社長

大山隆久

最初に知的障害のある社員を雇用したのは、今から六十年以上前の一九六〇年でした。先代の社長である私の父が、養護学校（当時）の先生に懇願されたのがきっかけです。その先生は、中学校卒業を控えた二名の生徒さんを雇ってくれないかと頼んできたのです。はじめは無理だと断った社長でしたが、先生はその後も諦めずに頼みます。三度目の来社するとき、生徒が一生を施設で過ごす前に、一度でもいいから労働を経験させてほしいと訴え、社長は二週間の実習を承知したのです。作業内容は、単純なラベル貼りでしたが、生徒さんは本当に一生懸命働いたそうです。その姿に心を打たれた社員たちは、二人の実習の最終日、自分たちがフォローするから二人を雇ってほしいと願い出たといいます。そこで社長は、二人を社員として迎える決断をしたのです。

二人は覚えたことをこなし、与えられた仕事に一生懸命取り組んでくれました。その姿が周りの社員たちにより影響を与えていき、障害者雇用はその後だんだん増え、今に至りました。

私は社員としてこの会社に就職し、十五年前から社長業を引き継いでいます。そんな中で今思うことは、労働の場において「障害者」「健常者」と分ける言葉はもはやいらぬ、ということです。

社会の中でサポートを受けられる仕組みなどの観点からは、障害者・健常者の区分は必要かもしれません。けれどもこの会社の現場では不要です。知的障害という枠に入る社員たちが、私には到底まねのできない、熟練の技術で仕事をしています。彼らも私も、人として何ら変わるどころはなく、シンプルに同じ「仲間」です。そんなことから、今は「障害者雇用」をあえて意識はしていません。

### 働くことで幸せになる

私が社員たちとともに意識したいのは、「働くことの喜び」です。会社の玄関前には、「働く幸せの像」があり、真剣に働く社員の目を表しています。先代の知り合いの彫刻家が、自身で発案してつくってくれました。

像の下には、「人間の究極の幸せは、人に愛さ



働く幸せの像

れること、人にほめられること、人の役に立つこと、人から必要とされること」と刻まれています。これは、先代が禅宗の僧侶に教えてもらった言葉です。愛されること以外は、働くことで得られます。しかしみんな仲間意識を持って働き続ければ、愛されることもかなうと思っています。

人から「ありがとう」と言ってもらえること、これが仕事ではないでしょうか。周りから感謝され、それを口に出してもらうことで、人は自分がいる意味を実感します。そしてそこを自分の居場所と捉えることができます。

どの社員も、この会社を自分の居場所としてくれる。難しいことかもしれませんが、私はその実現を目指しています。

### 伝わらないのは伝え方が悪い

障害の程度や、得手不得手により、各社員の

できることには差があります。説明を受けて分かったと言ったのに、できていないこともよくあります。そんな社員に對して、いらいらする周りの目も、はじめの頃はありました。

しかしやがて私たちは、できないのは教える側に原因がある、ということに気付いたのです。相手が分からなかったり、できなかったりするの、こちらの伝え方や教え方が悪いのです。相手の理解力に合わせて、できることから順序よく教え、できる環境を整えれば、ちゃんと分かり、できるのです。

健常者どうしても、言ったつもりがうまく相手に伝わっていかなくて、トラブルになることもあります。それは相手に伝わったかどうかの確認を、伝える側が怠ったからなのです。

社員の中には、コミュニケーションをとるのが苦手な人もいます。そんな人には、積極的に声かけするように心がけています。「元気?」「やあ!」などちょっとした呼びかけですが、自分のことを気にかけてもらっていることが分ると、それだけでもうれしいのではないかと思います、やっています。

中には重度の知的障害の人もいます。入社したての頃は、会話が成立しない社員もいました。ところが何年かして、その社員の家族から「頭が痛い」とか「お腹がすいた」とか、家にいる



社員どうしの仲間意識を高めることは大事だと考えています。

と考えると、コロナになる前は、社員旅行を毎年実施していました。レクリエーションのためだけでなく、仲間を知る意義が大きいです。

## 仲間と働くこと

ときに自分の状態を言葉で表現できるようになつたと聞きました。  
 仕事を受け持っていて頑張ることが、よい刺激になったのかもしれませんが。私は心からうれしく感じました。社員が仕事を通じて成長できるなら、その成長を応援できることもまた大きな喜びです。  
 相手に合わせてフラットに接することの大切さ。私たちはそんなことにも気付かされ、社員全員が、お互いのコミュニケーションを大事に考えるようになったのだと思います。

社内食堂には、旅行で撮った写真のアルバムを置いています。社員たちはよくそれを開いては、思い出を語り合っています。

また、ある若い男性社員の家族から、息子が会社へ行くのを毎日楽しみにしているという話を聞きました。仕事もさることながら、昼休みに仲間と話すのがとても楽しいらしいのです。

私たち経営者は、決して慈善活動をしているわけではなく、経営の目的は、利益を上げて未来をつくることです。社員は生活と未来へ貢献するために働いているのです。社員にとっては一日集中して仕事をするのが肉体的に厳しいこともあると思います。

しかしそんな中で仲間意識が持てて、みんなの喜びを自分の喜びに感じられるようになれば、会社は自分の居場所になっているはず。自分の居場所を持ち、認め合い、感謝し合い、応援し合う。人はそうすることで、生きる喜びを得られるのではないかと思います。それを実現できる会社にしていくのが自分の役目だと思っています。

## 人に関心と愛情が持てる社会

年末には忘年会を開きます。といってもお酒を飲んで騒ぐのとは異なり、表彰式をするので

す。

優秀賞、敢闘賞、成長努力賞、提案賞、<sup>6</sup> S賞、挨拶賞、特別賞、働く幸せの賞、勤続表彰（三十年と四十年）があり、全社員がどれかに該当するように発表します。社員たちはよりよい賞を目指していて、発表を聞きながら、喜んで残念がったり讚え合ったり、念願の賞が取れずに泣いてしまう人もいます。毎年感情を全身で表して盛り上がりがあります。

定年を迎えこの会社を「卒業」した社員の数は、十数人にもなります。以前は中学校を卒業して入社する人もいましたから、五十年以上働いた社員もいます。定年となり会社を去るに当たり、社員が「この会社で働けてよかった」と言ってくれたときに、この上ない喜びを感じます。

誇りを持って卒業していく姿を見て、社員もその人への尊敬の思いをさらに強くし、それがまた自身の労働意欲に通じるようです。

今後、障害の有無だけでなく、多様な人々が共生する社会になるでしょう。心の垣根なく暮らすには、お互いが関心と愛情を持つことが大事なのではないかと思っています。

（取材・文／入澤宣幸 写真／田口周平）

\*6S：日本理化学工業では、整理、整頓、清潔、清掃、習慣、safetyを6Sと呼んで重視している。

# 道徳授業私の実践

## 構造的な板書で

## 道徳的価値の理解を深める

大阪教育大学附属  
平野小学校主幹教諭(執筆時)  
寺西 克倫

### 教材について

- 主観名 信頼し合う友
- 内容項目 友情、信頼
- 教材名 「いのりの手」(『新・みんなの道徳 4』学研)
- ねらい 友達と互いに理解し合おうとしたり、信頼して助け合おうとしたりする気持ちを育て、たとえどのような状況におかれても、友情を大切にしようとする態度を養う。

### 授業の実際

#### 【導入】

どんなことに「友情」を感じるかを

問うた。「友達との絆」や「息が合っていること」などの意見が出た。

#### 【展開】

教材範読後に、絵の勉強をするデューラーと、鉄工所で働くハンスの状況や、二人が再会した後に「いのりの手」の絵が描かれたというあらすじを確認した。その後、二人が離れている間、それぞれがどんな思いで過ごしていたのかを考えるようにした。

子どもたちはまず、ハンスが、デューラーに対してどんなことを思いながら鉄工所で働いていたのかを考え、ハンスの絵の勉強に対する思いや、仕事に対する気持ちとして、「自分も早く絵の勉強をしたい」「(仕事は)疲れる」などが出た。一方、デューラーに

対する思いとして、「たくさんお金を送ろう」「絵がうまくなってほしい」「頑張ってるほしい」などの意見が出た。これらの意見を、ハンス自身に向けた気持ちと、デューラーに対する気持ちに分けて板書した。

次に、デューラーについても、どんな気持ちで絵の勉強をしていたのかを考え、「もっと勉強したい」「(絵かきとして)有名になりたい」などが出た。一方、ハンスに対する思いとして、「お金を稼いでハンスに送りたい」「ハンスのことが心配」「ハンスに会いたい」「お金を届けてくれたり、先に勉強させてくれたりしてありがとう」などの意見が出た。

板書では、それぞれの気持ちに関して出た意見を枠で囲み、さらに、それぞれの相手に対する気持ちに関する意見を赤い線で囲んだ。そして、二人の「いのりの手」に込められた思いを考えるようにした。

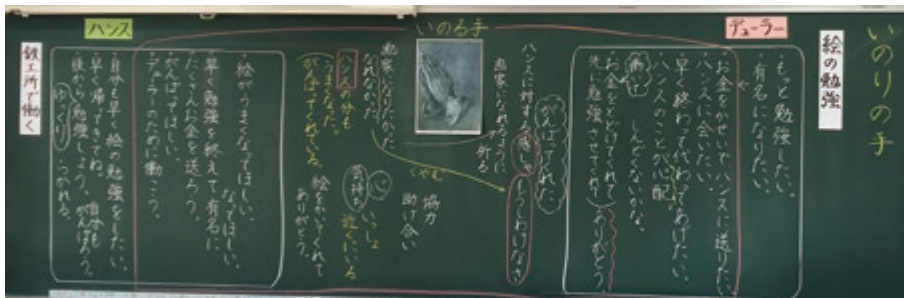
デューラーのハンスに対する感謝の気持ちや申し訳なさを想像したり、ハンスのデューラーに対する「絵がうまくなくてくれてありがとう」という気持ちに迫ったりすることができた。そ

して、さらに、それぞれ状況は異なるが、お互いの心や気持ちが近くにあったからこそ、協力したり助け合ったりできたのではないかという、二人の友情について考えたことを深めることができた。

デューラーのハンスに  
対する気持ち

「いのりの手」に  
込められた思い

ハンスのデューラーに  
対する気持ち



道徳的価値の理解の深まり

(てらにし かつのり)

# 道徳授業私の実践

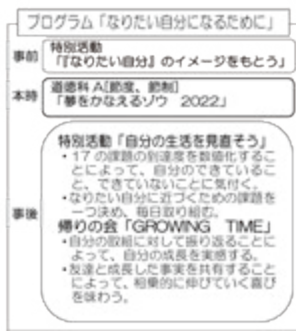
「なりたい自分」を実現する

ための指導構想の工夫

千葉県千葉市立  
幕張西小学校教諭  
加藤 秀和

## 主題について

本主題では、よりよい生活習慣の獲得が、「なりたい自分」の実現につながるということを実感させたいと考えた。事前にレディネス（学習準備）を整え、本時で実践意欲を育み、事後に実践することにより主題に迫る指導構想を工夫した。



## 教材について

○**主題名** なりたい自分になるために  
○**内容項目** 節度、節制  
○**教材名** 「夢をかなえるゾウ 2022」  
2「（水野敬也『夢をかなえるゾウ』飛鳥新社2007改作）」  
○**あらすじ** 何をやってもうまくいかず自己肯定感が下がる主人公の前にゾウの神様が現れる。そのゾウから、成長するための課題が出される。「整理整頓をする」という課題を実行することにより、整理整頓が「細かいところまで丁寧になす力」につながることに気付く。その後も「十七の課題」をクリアし、なりたい自分に近づいていく。

○**ねらい** よりよい生活習慣を身につけることが、なりたい自分を実現するために大切だと理解し、自分の生活を見直そうとする実践意欲を育む。

## 授業の実際

### 【導入】

「将来どんな人間になりたいですか。」と問い、ねらいとする価値への方向づけをした。

### 【展開】

「ぼくはキャリアパスポートに書いた目標を忘れてしまい、結局目標を達成したことがない。」その理由を考えることにより、目標を意識できていないことや怠け心に負ける人間の弱さを共感的に理解させることができた。次に「整理整頓すると、細かいところまで丁寧になりとげる力につながる。」理由を考えることにより、よい習慣を身につけることが、なりたい自分を実現するために大切だと理解できた。そして、十七の課題の中から取り組みたい課題を一つ選び、その理由を友達と話し合うことで、すべての課題に心構えを変える効果があることを多面的・

多角的に理解し、よい習慣を身につけていきたいという実践意欲を高めることができた。

### 【終末】

- 十七の課題（一部抜粋）
- 1 身の回りを整理整頓する
  - 2 毎日感謝する
  - 3 一日の計画を立てる
  - 4 自分からあいさつをする

これまでとこれからの自分について振り返りを行った。「今までもよい習慣は大切だと思っていたけれど、続くことがなかった。継続することが、自分を成長させることに気付いた。」十七の課題はすべて大切なので、計画を立てて取り組んでいきたい。」など今後の活動に更なる意欲を持つ姿が見られた。

## おわりに

事後に継続して実践の場を設けたことにより、道徳的価値のよさを実感し、日常生活に生かす姿が見られた。指導構想の工夫により、日常生活に生きて働く力につながると考える。

（かとう ひでかず）

〈対談〉

SDGSX道徳 連載第十三回

## SDGSXいのちの教育

NPO法人いのちをバトンタッチする会

代表

鈴木 中人

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

理事

木村 大輔

いのちに向き合うとはどのようなことなのか、生や死について、子どもたちにどのように伝えることができるのか、お話を伺いました。

## いのちを輝かせた長女の生きざま

**木村** いのちをバトンタッチする会の活動について教えてください。

**鈴木** 当会は、いのちの大切さや家族との絆を教育・啓発する「いのちの授業」を行っています。主な活動は四つあります。一つ目は学校や企業、行政などでいのちの授業を行う教育研修事業、二つ目は本や映画を制作する事業、三つ目はいのちをテーマにした講演やイベントなどを通していのちを見つめる社会啓発事業、四つ目は小児がんの子どもたちの支援です。私が会社員を辞めて、任意団体「いのちをバトンタッ

チする会」を設立したのは二〇〇五年ですから、活動を始めておよそ二十年近くになります。

具体的に説明するにあたり、まずは長女の景子の話をさせていただきます。娘のいのち、人生を意味あるものにしたという強い思いが、今の私をつくっているのです。

長女の景子が小児がんを発病したのは一九九二年のことです。当時、私はどこにでもいる会社員。妻と長女の景子、景子の弟として生まれた長男の康平の四大家族で暮らしていました。

景子が三歳のときのこと。体調を崩して近くの病院に連れていくと……小児がんでした。頭の中が真っ白になりましたが、心の整理をする間もなく闘病生活を始めなければなりません。治療で家族バラバラの生活を強いられるため、入院前日に景子にきちんと説明し、「お

父さんとお母さんはいつも病院で一緒にいるよ」と話しました。すると彼女の第一声は「こちゃんんは？」でした。自分が大変な思いをするのに、最初に心配をしたのは弟のことでした。家族が一緒にいることがどれほど素晴らしいことなのかを思い知らされました。

つらい治療が始まった頃、景子が私に「私、天国に行っちゃうの？」と聞くのです。私は驚きましたが、幼くても状況をしっかりと理解できていることに気が付き、治療や付き添いについて、きちんと景子に伝えることにしました。

その年の暮れ、年末年始で献血施設が休みになり、治療で使う輸血用の血液が足りなくなるため、治療をいったん休止すると医師から告げられました。私はこの時、景子のいのちは、会ったことのない名前も知らないたくさんの人たちに支えられていることを知りました。景子に話すと、彼女は輸血パックのほうを見て、「ありがとう」と小さく頭を下げました。

その後、治療の甲斐があつて退院し、保育園に通園できるまで回復しました。その時皆さんが病人としてではなく、一人の園児として受け入れてくれたことがうれしかったです。

手術から二年が経過し、治療を終えられるかを調べる検査を受けたところ、脳に転移が見つかり、医師から余命が宣告されました。私たち



鈴木中人さん リモートで参加

夫婦は、できるだけ普通の生活を送らせようと決め、景子を地元の小学校へ通わせました。骨がもろくなっているため車いす生活でしたが、先生や友達に会いたいと、自分で車いすをこいで学校へ行きました。

景子の夢は「およめさんになること」でした。きれいなウエディングドレスに憧れていたのです。最後の誕生日、妻は「景子ちゃんの花嫁姿を、一度だけでいいから見たい」と真っ白なドレスを贈りました。治療のせいで髪は抜け、脳の手術跡があり、顔もむくんでいましたが、鏡に映る自分の姿にとっても喜んでいました。同じ病棟に入院していた子からももらったかつらを被り、写真を撮りました。それが遺影です。景子はそのドレスを着て天国へ旅立ちました。

それから約五年間、私はこの経験を封印したかのように一切口にせず、現実から逃げるように仕事に邁進しました。

ある日、たまたま読んでいた本に「子どもの供養とは、親が生まれ変わることに。子どもの分まで生きる」と書いてあるのを見て、涙があふれました。娘の死を受容しようとしているだけで自分は何も変わっていない……。自分ができるだろう……。と。

そんな中、映画『おくりびと』の原作『納棺夫日記』の作者である青木新門さんに出会う機会があり、彼は私に「いのちのバトンタッチ」という詩を読んでくださいました。それをきっかけに、景子が自分のいのちを通して教えてくれたことを伝えることが、私にとつての「いのちのバトンタッチ」ではないかと考えたのです。話が長くなりましたが、当会の「いのちのバトンタッチ」の活動が、これでご理解いただけると思います。

### いのちのバトンを渡し合う

**木村** 私が所属するGIFTは、よりよい世界をつくっていかうという志を学校教育、社会教育の中で推進することを目指して立ち上げました。GIFTという名前は、「これまでの世代

からたくさんの贈り物をいただいた中で、今を生きる私たちは何を残せるか？」という問いに由来します。SDGsの理念から、市民一人一人の行動変容のために何かできないかと考え、多岐にわたる教育活動を行いながら今に至ります。

鈴木さんは数多くの学校でいのちの授業をされていますが、いのちの授業を行うことで鈴木さんご自身に変化はありましたか？

**鈴木** 私の体験を「いのちの授業」として子どもたちに話すとき、どのように伝えるべきか考えました。私の話は子どもが亡くなる話ですから、死というものを伝えるとはどういうことかを考えました。

死について話すときには、個人の主観がベースになります。例えば、戦争体験を話すのであれば反戦や平和というメッセージになります。差別や偏見という視点であれば人権につながります。しかし学校で授業をする上で、子どもたちに伝えるメッセージは個人の主観よりも普遍的なものにしたいと考えました。そこで私は、いのちの授業で伝えるメッセージを「生き抜くこと、支え合うこと、感謝すること、そして親より先に死んではいけないということ」にしました。つまり、死の教育ではなく、どう生きるのかということについて、自分のありのまま

まを伝えようと決めたのです。

子どもたちから教えてもらったことはたくさんあります。第一に、いのちの授業では考えを押しつけず、ありのままを感じ取ってもらうこと、問いかけることが大切だということです。

このことに気付かせてくれたのは、ある小学校での出来事でした。私が授業をしているとき、子どもたちの中に、まったく表情のない子が数人いました。気になって後で先生に聞くと、児童養護施設で暮らす子どもたちで、多くは虐待された経験があるということでした。私はハッとしました。実は、心のどこかで「生きてくても生きられない子がいるのに、なぜ君たちはもっと一生懸命に生きないんだ!」と思っていたのです。「私が話せば彼らは変わる、変わらなくちゃいけない!…」と思いがつていました。

大人も子どももいろいろなものを背負って現実を生きています。たった一度話を聞いただけで現実を変えることなどできません。では、私に何ができるかと問い直し、きっかけを作ることでならできないのではないかと考えました。

以来、授業を行う前に、私は子どもたちに「今から小学生の女の子が病気で亡くなる話をします。そこには多くの困難や悲しみがあります。もし自分だったらどうするか、いのち、家

族、生きるって何だろうと自分に問いかけてみてください。そして、何か一つ大切にしたいことを見つけて、それを続けてください。きっと幸せになれますよ」と話すことにしました。自分に問いを向けてもらうようにすると、不思議なことに、皆さんの体験や生き方を教えてもらうことが増えました。活動を始めた当初、いのちのバトンは私から渡すものだと思っていました。互いにバトンを渡し合い、心が共鳴し合うことが大切なのだと思ってきました。

もう一つ、いのちの教育で何を学ぶかについて確信させてもらった、ある男の子との出会いがあります。彼は、私の授業を聞いて大声で泣き出しました。二週間後、子どもたちの感想文が届いたので読ませてもらうと、一番目の作文に先生のメモが貼ってありました。「この作文を書いたのは、あの時泣いてしまった子です。六年生ですが、ほとんど漢字が書けません。いつも無口で何を考えているのか心配していましたが、この子の気持ちを知って涙が止まりませんでした」とあります。

彼の作文を読むと、確かに平仮名ばかり。「僕はいつもお父さんお母さんに迷惑ばかりかかっています。親孝行をしようと思ってもなんの取り柄もありません。なにかないかと考えたら、お父さんお母さんより早く死なないことに

しました」と書かれていました。彼はいのちの授業で三つのことを学んでくれました。まず、いのちを感じてくれたこと。次に、人は生まれて生きて死んでいくという、いのちの真理を知ってくれたこと。その上で、どう生きるかを考えてくれたことです。これが、まさにいのちを学ぶプロセスなのだろうと確信し、「いのちの学びサイクル」と名付けました。

活動を始めた頃、学校を訪問して感じたのは、死をタブー視していることへの違和感でした。子どもに死を語ることが不安なのは当然ですが、果たしてそれでいのちを感じることでできるのでしょうか。生きることは死に反するのではなく、死があるからこそ生きることが分かる。私は思うのです。

いのちの授業の冒頭で、子どもたちに「人は死んだらどうなるか」と聞くと、「分からない」と答える子が一定数います。印象深かったのは、小学一年生のある子の「私は分かりませんが、小学一年生の子の「私は分かりませんが、なぜなら死んだことがないからです」という言葉です。

これが真実です。現実の死に向き合ったことがない子どもが、いのちの実感が薄いのは自然なことです。だからこそ、現実のいのちや死と向き合う「いのちの授業」に多くの方が共感してくださるのでしょう。





木村大輔さん

## 答のない問いに向き合う

**木村** 鈴木さんが子どもたちとの出会いから得た気付きにとっても共感します。私もいろいろな学校でワークショップなどを行います。大人はつい、ワークショップに参加すれば子どもたちが変わるだろうと考えます。しかし、ワークショップで作ったきっかけをどう学校で拾い、扱っていくかが重要なのです。

SDGsが、絶対的な貧困をなくす、平和な社会をつくるというゴールを掲げているのは、人の死に直結する問題が今も起きているからです。それは遠い世界の話で、私たちは豊かで平和な国に生まれてよかった……というところで終わらせてしまうのはもったいないことです。自分とは関係がないと思うことの中にも、実は

自分につながる部分があるという視点を持ち、思考の幅を広げると見える世界が大きく変わる経験をしてほしいのです。これは、鈴木さんのお話にあった死のタブー視にも通じています。SDGsを学ぶ際、ネガティブな側面が少ない無難なテーマを扱うのではなく、自分自身と重ねて考えることができるリアルな学びを大切にすべきではないかと、鈴木さんのお話を聞きながら思いました。

**鈴木** ある中学校へ行ったとき、先生が「午前中はSDGsについて学びました」とおっしゃいました。午後にはのちの授業を行い、生徒たちに感想を聞くと、ある子が「うーん……」と考え込んで、「いのちは大切だけど、世の中は（戦争や殺人があつて）そうなっていないですね。いのちが大切って建前なのでしょうか。こういうことを学ばないと大人になれないのでしょうか」と鋭い質問を私にぶつけてきました。

そこで私は、「すごくいいことに気付いたね。みんなが勉強するのは生きていくためのものだけだ、生きていくのは夢の中ではなく現実です。君が矛盾に感じたことも現実です。なぜだろう? と考えることもいのちについて向き合う現実です。プラスなこともあればマイナスもある。それを知った上で、自分で考えて行動する。これが社会の中で生きていくことだと思

し、その第一歩を踏み出した君の問いは素晴らしい。もっと悩んで、考えてください」と答えました。

大人として大切なのは、よい面や模範にしてほしいことばかりではなく、現実をまるごと伝えることだと思えます。両面や相対ではなく「まるごと」です。

**木村** 答えに導くのではなく、探究する、自分に問いを向ける活動が大切なのです。

日常の中に、子どもたちが主体的に考える機会はたくさんあります。これらを丁寧に扱えば、豊かな学びの機会になります。自分の中で考えを深めるためには知識が必要で、だから勉強が大切だという姿勢が、これからの学びのスタイルになるでしょう。

先ほど鈴木さんが話された「いのちの学びサイクル」はこれを体現していて、いのち以外のテーマでも同じプロセスがたどれます。知って感じて、真理を探究して、「では、自分はどうするか?」と問う。そのために、学校という場所は、先生にとっても児童生徒にとっても、自分の考えが否定されず受け入れられる居場所であってほしいと思います。安心して居られる場所だからこそ、現実をまるごと受け止めて、それぞれの生き方へ向き合えるのだと思います。

(取材・文／岡本侑子)

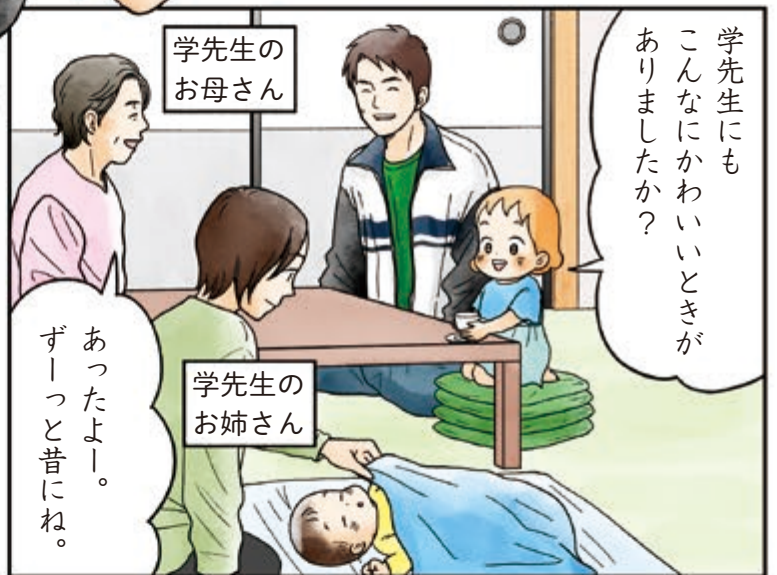
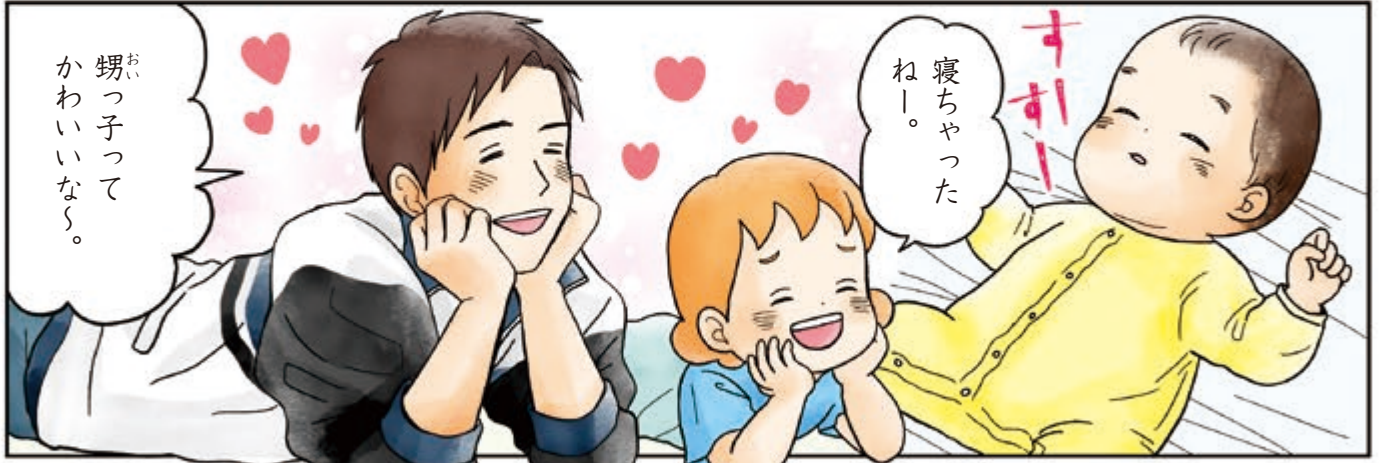
# どうなるこれからの道徳授業

連載19回 いのちの教育編

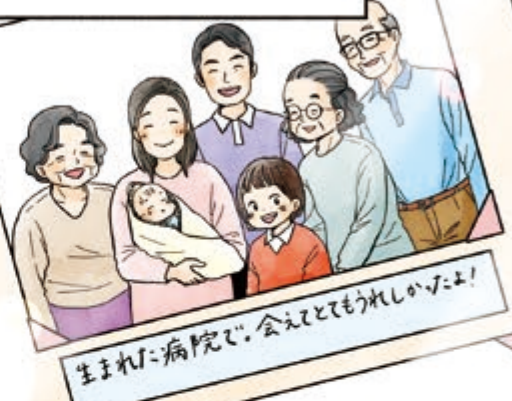
監修・法政大学兼任講師 廣瀬仁郎先生  
マンガ・のはらあこ

とくちゃん

学先生



### いのちの連続性

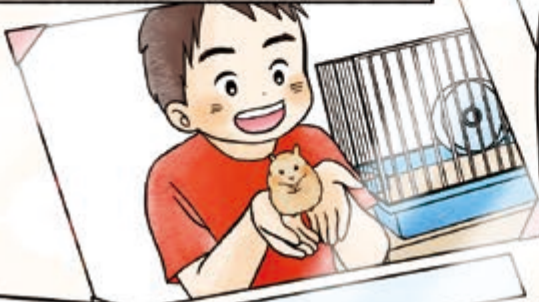


生まれに病院で、会えとてうれしかったよ!

両親や祖父母、先祖から  
いのちのバトンがずっと  
つながっているんだね。

クラスにはいろんな家庭環境の子が  
いるから、配慮することも必要だよ。

### いのちの有限性

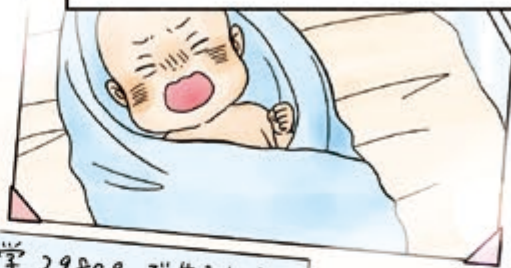


いのちは限りあるものだと  
学ぶことも大切だね。

子どもの頃にハムスターを  
飼ってたんだ。小学三年生  
のときに死んじゃったんだよ。

すごく悲しかったな……。

### いのちの不思議さ



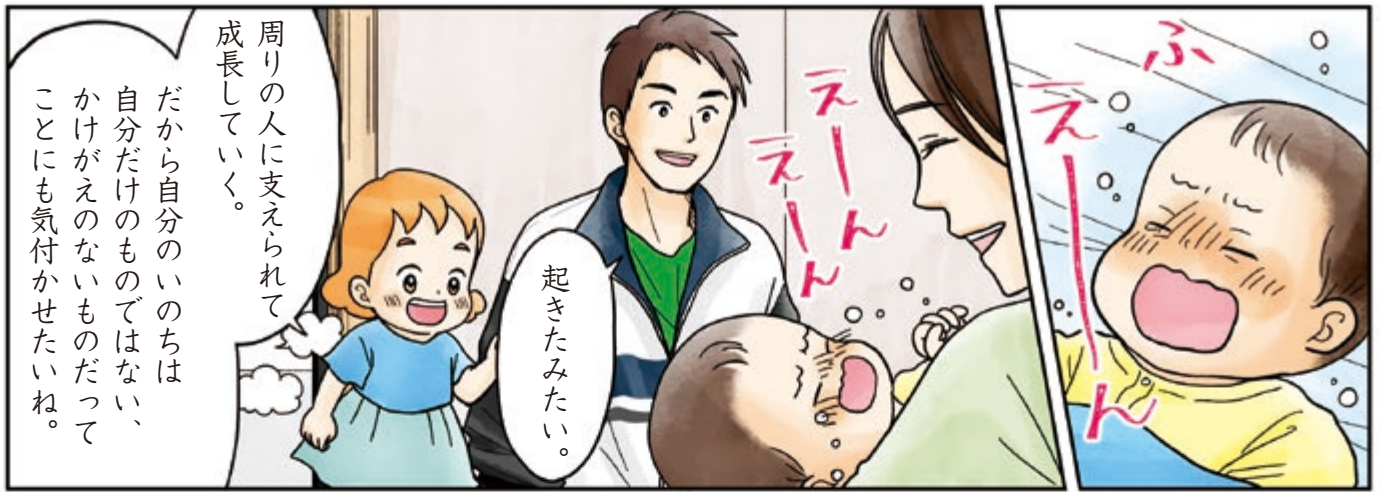
学 29808 で生まれる。

こんなに  
小さかったんだなあ。

こんなに小さくて  
かわいかったのね。

いのちが誕生し成長する  
不思議さや、  
いのちの有限性を  
実感できるよう、動植物を  
育てる体験も効果的だよ。

理科の授業とも  
関連させられそうだね。



周りの人に支えられて  
成長していく。  
だから自分のいのちは  
自分だけのものではない、  
かけがえのないものだって  
ことにも気付かせたいね。

起きたみたい。

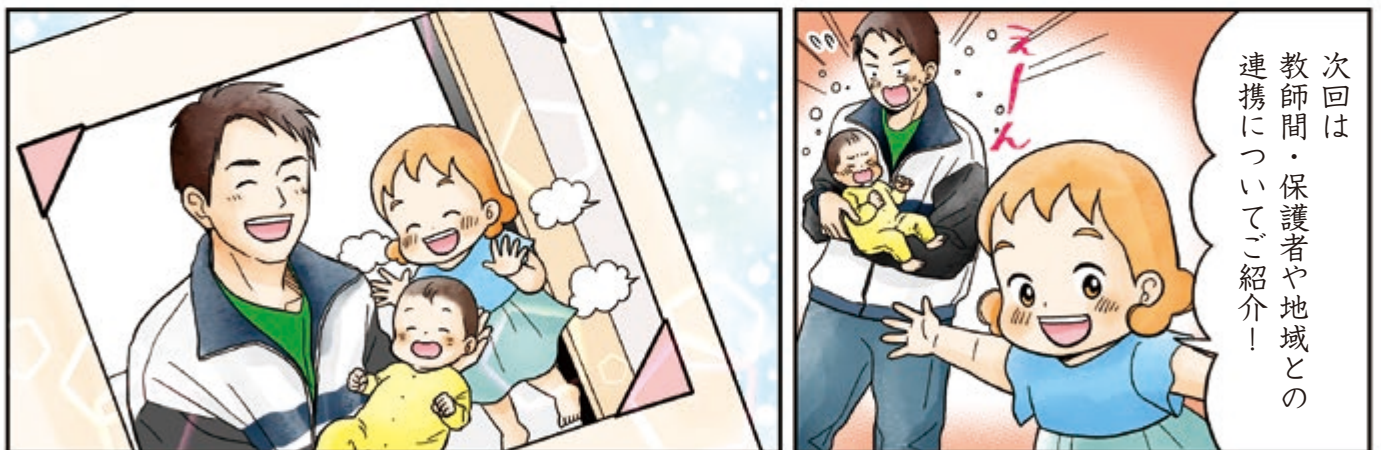
えん  
えん

ふん



いのちの重さを受け止めて  
どう生きていくか  
考えるんだね。

こうしてさまざま視点で  
いのちについて考えることで  
「今を生きる喜び」を  
感じられるようにしよう。



次回は  
教師間・保護者や地域との  
連携についてご紹介！

**道徳ジャーナル117号** 令和5年5月発行

発行所 株式会社Gakken 発行人 甲原 洋／編集人 麻生征宏

本誌のお問い合わせ先…学校・社会人教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」のPDF版はWEBページから。

9300008480

**\*LINE 公式アカウントのお知らせ\***

(株) Gakken おんたま先生

体育・保健体育や道徳、特別支援教育、ICT 教育などの最新情報や、  
オンラインセミナーの開催情報を配信しています。

友達  
募集中!



QRコードをスキャン  
するとLINEの友達に  
追加されます。